

第52回 緑の市民懇話会 会議要旨

1 日 時 令和5年3月14日(火) 10時00分～12時00分

2 場 所 生駒市役所 302会議室

3 出席者

(参加者) 久隆浩座長、下村泰彦、倉品夏江、澤村章男、日高容子、山田勲、高比良紀、
真下藍

(事務局) みどり公園課 河島課長、巽課長補佐、南
花のまちづくりセンター 立岡係長、大久保

4 傍聴者 なし

5 議題・要旨

1 開 会

2 案 件

(1) 第15回 花と緑の景観まちづくりコンテストの審査について

資料の審査結果をもとに各賞を選定した。

- ・予め実施した写真および現地審査に基づき、部門ごとに点数の高いものから受賞者を決定していった。
- ・新人賞について、要綱にはないが、せっかく参加していただいたので、参加賞に色をつけることができるかもしれない。
- 賞があればいいと思う。花苗や肥料を少し増やすでもいい。
- 常連がどんどん賞を取るので、もういいやといった気持ちにならないように、1回は差上げると良いかと思う。
- ・ふろーらむが主催されているので花が強いが、里山保全活動が弱い。少なくともまちづくりや緑化活動に取り組んでおられることは評価できたらいいと思う。今回は玄関前や自宅など場所で決めている。例えば、里山保全の団体の方などは色んな場所で活動しているので、緑化活動そのものも評価してもいいのではないかと思う。色んな大学でも山の保全活動をされている。広げていく工夫として、緑化も評価できる仕組みがあってもいいのではないか。応募資格を再度考えて、公園の山手でされていくような活動も評価できないか。この4月からできなくても、その次年度くらいからできないか。
- ・この後の議題でもあるが、景観まちづくり相談の案件で、植栽を綺麗にしてくださっているような事例も評価できないかと思う。

(2) 第16回 花と緑の景観まちづくりコンテストについて

○事務局から資料に基づき次年度の応募要領案の説明を行った。

- ・敷居を低くして申し込んでいただきたいという思いからポーチプレイスメイキング部門を新設し、年度内に2回広報紙に載せたが、応募が少なかった。名称がわかりにくいというお問い合わせも何件かあった。そのあたりもご意見をお聞きしたい。
- ・写真審査にしたが、あまり写真の提出がなかった。また、エントリー方法を入力フォームで作ったが、従来の方法が10人、応募フォームが5人、不具合が2名あった。入力フォームでの応募に移行していきたいと考えている。
- ・審査方法は、写真審査に加えて必要に応じて現地審査を行う形にしたい。
- ・年間を通した審査とし、年3回、前景や近景・活動状況など合計9回出していただかなければならない。敷居を低くするのであればそれが良いのか、ご意見をお伺いしたい。
- ・表彰式は現在、秋ごろに行っているが、間延びするので、少し早く表彰式だけできないかと考えている。
- ・部門がいくつかあるが、似通っている部分もあるので、改めてご意見いただきたい。

○説明を受けて懇話会参加者で議論を行った。

- ・先程も話があったように、里山保全活動も評価したい。それを踏まえて応募要領を見返すと、「花壇」という表現が多すぎるので、樹木や緑化に関するものが対象に見えない。審査基準に④として緑化や里山といった表現を加えられてはどうか。
- ・個人賞が3件、ポーチプレイスメイキング部門が3件で、合計6件あるが、この区別はどうなっているのかが少しわかりにくい。「ポーチ」なので玄関のイメージはあるが、自宅で玄関とお庭の両方で植栽をやっている方も多い。「ポーチプレイスメイキング」はちょっとした空間、ちょっとした活動を指す。それがわかりやすい表現の方がいいのではないか。「庭先」「玄関先」などの表現が思いつく。どのようなことかわかるネーミングかわかるといい。一方で、「ポーチプレイスメイキング」という言葉を定着させたいのであれば、その言葉を使っていくのも1つ。
- ・「緑」という言葉は花も含むが、一般の方は樹木をイメージするのだろうか。
→お花をつくっている人は、樹木をあまりイメージしない人もいると思う。
→要綱にも「木」という文字が出てくるといいかもしれない。
- ・自宅に樹木を取り入れようとしたら既存の樹木との兼ね合いもあって、新たに植えたりするのは寄せ植えの方が手を付けやすいのは実感としてある。
- ・お花以外にも、新築時の敷地緑化、建物緑化、屋上緑化など、色んな工夫は生駒にもあるはずなので木々で応募しやすい形に応募概要を工夫できないかと思う。民間の事業者の方の参入が期待できないかと思う。景観まちづくり相談でせつかく頑張ってください。

さった設計者の方を表彰できればという思い。今思い浮かぶものでいうと、生駒北小学校の跡地に桜を残すなどの取組があった。

- ・生駒市は戸建て住宅が多いが、中高層にお住いの方のベランダ緑化はあまり見られないのか、市として推奨はしていないのか。外から見えるようなものでないと景観まちづくり賞は難しいが、都心でみられるようなものなので生駒は少ないのか。
- あまり見かけない気がする。
- ベランダは美しいものばかりではないので隠そうよという傾向にある。中で植えてもらっても景観に貢献しにくいという部分はある。
- ・学校などで一時流行った緑のカーテンのような取組も緑化である。
- ・次年度の募集内容を決めるにあたり、広報紙の×切には間に合わないこともあるかもしれないが、しっかり読んでいただけるのはホームページなので、詳細は4月までに反映されればよいと思う。
- ・3回写真を撮影するにしても、提出×切がバラバラなので時期が決まっているといいかと思う。
- ・応募写真に花のアップが多い。育てている人からすると自然とそうなるものかと思う。どういう写真を求めているかはしっかり伝えていくべきかと思う。事例写真かイラストをあげられた方がいいかと思う。
- ・大阪のまちなみに関する賞では、設計者がいかに美しく見せるかで応募されてくる。生駒では花ばかりに着目されている傾向にある。
- ・賞は別にいらないという方が多い、応募されませんかと誘うと、もういいです、賞のためにやってるんじゃないんです、と仰る方もいる。
- ・今回3件新しい方が応募して来られた方がおられたことが嬉しい。活動自体を新しく始めた方も多い。景観まちづくり賞は新しい方も一定入ってきたので今回は良かったのかと思う。一方、ポーチプレイスメイキング部門は、裾野を広げるためにメールや応募回数など工夫もしたが残念だった。名称は、変えるのか、定着を図るのか、悩ましいところと思う。応募要領を見るとこの2つの部門の違いはわかりにくいところがあるが、実際に受賞されている方のレベルを見ると全く違うので、違いのわかりやすさを表現できるといいと思う。
- ・特別賞的に議長賞をあげられるとよいので、今後は点数ではなくて理由も載せられるといいかと思う。
- ・画像だけで審査するなら、1時点ではなく複数回の写真が必要かと思う。
- ・花なのか、樹木なのか、必要な回数や時期も異なってくるのではないか。
- ・樹木に関しては、2～6月の写真1回と、10～12月の紅葉時期の写真1回、その2回でいいのではないか。敷居も下がるし、頑張ってくださいっている方を評価するのもあるが。
- ・審査側として、活動状況は写真が必要か、コメントで十分か。

→まちづくり賞は、写真がないと審査しにくい。写真は要と思う。それよりも、なぜその写真が欲しいかを明確に示す必要があると思う。

- ・ポーチプレイスメイキング部門にまずは手軽なサブタイトルをつければいいのか。
- ・応募資格に「ポーチプレイスメイキングを実践している」と書かれてしまうと何それとなる。題名はポーチプレイスメイキングでもいいが、応募資格はもっとわかりやすく、「道行く人たちに楽しんでもらっている」くらいの表現でいいのでは。
- ・根本的に、コンテストの目的って何だったんだろうということを振り返り、役目を終えているならコンテストを終えてもいいのではないかと思う。コンテストという時代でもないのであればやらなくていい。
- ・すぐに直せる部分は直して5年度に反映させる。議論に時間がかかるころは、6年度から変更できればと思う。

(3) その他

- ・緑の基本計画について、前回進捗把握を行い、現在は基礎データの調査中である旨を事務局から説明した。

4 閉 会